

Title	大工頭中井家文書(十三)
Sub Title	On the documents concerning the Nakai (中井) Family (XIII)
Author	中井, 信彦(Nakai, Nobuhiko) 高橋, 正彦(Takahashi, Masahiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1972
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.45, No.1 (1972. 9) ,p.97- 108
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	史料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19720900-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大工頭中井家文書(十三)

中井信彦
高橋正彦

〔二九五〕 院御殿の覚

院御殿之覚

一 東の御ふろや

一 御詰衆台屋北にて十五間みしかくなるへし

一 忌之間

一 御物書部屋

一 御台所これも御さしつよりもちいさくなり候

〔二九六〕 御殿こかべの事についての覚書(断簡)

一 御位御所御座御殿之小壁之事

一 中宮様御殿こかへはり付之由ニ候、然者院之御所之御

殿こかべはり付所ニより可申よし之事

〔二九七〕 さらにへの大工の作料覚

さらにへの大工さく両

きも入

上々 六升つゝ 二升はんまい

なみの

上 五升つゝ 二升はんまい

中 四升五合 二升同

下 三升五合 二升同

上かたより下申大工

とうりやうハ

上々 七升 二升はんまい

上 五升五合 二升 同

なみ

上 五升 二升 同

はままつ衆ハおしなへて五升つゝ

するかの物ハ 上々七升、中六升、下五升五合ほか小引

六升つゝ、はんまい共ニ、みのおか小引、五升五合つゝ、

みのおさらへハ六升つゝ、

上より下申物ハ、六升五合つゝ、

〔二九八〕 和州大工衆国役等についての覚 案

右折紙にて申上候条々事

一伏見御本丸西丸御普請ニ付国役之大工にて被仰付候、此通和州大工衆へ被聞候へハ御給人方より百姓役被仰付候間、国役ハ一日も仕間敷と申上候事

一此指引庄屋に不相濟故ニ去年当年国役國中より一日も不仕候事

一大工衆と百姓衆との年貢合之儀御引分被成大工衆之年貢之儀ハ大工衆中より宜被仕候者申事有間敷候事

一万庄屋私成事付御大工衆のため申事ハ具ニ大工衆かき付ニ御座候間よく可成仰下候事

一色々此地にて國中之大工御知行之内大工衆呼寄重而之

出入ハ如此可申候間、先国役を仕候へと申付候へ共、件之儀合不申候間大分之役儀之御事ニ候間、我等の分ニても難成候間市正様へ可然様ニ被仰上候て可被下候、以上

後八月二日

津忠右様

揖新右様

牧五右様

〔二九九〕 中井正清書状

猶々、よしのかみいつものやうニなく候てわるく候てまゝ、さためてやすく候てとそんし申候、その心にて
□かやすくやり候へく候

よしのかみたしかにうけとり申候、我等も十日ニと下申候、はるハやかてくのほり申候、早も五十石と申候、又五十石のほせ候へと庄八へ御申付給候、右之ほかにもち米も十五石いつものことくのほせ候へと申付給候、そこもとの御いのやうちんよく申へく候正月ニ長吉

そこもとへ下申ともすこしも物入申事なきやうに申へく候、はるはうへさまもはるハ御のほりにて候まゝやがてくまいり候へく候、恐々頓首

十二月六日 中大

加(分)一郎
まいる

〔三〇〇〕 江戸幕府老中連名覚書 写

覚

中井主水

常々 御奉公精出相勤候付而式拾人扶持新規役扶持被下之、且又刀御免被遊候間可被申渡候、於当地御作事奉行江も申聞候

一主水儀向後者二条御城内御普請之節大番方より出候御普請奉行ニ差加諸事可相勤候、其外御普請方之儀弥念入勤候様ニ可被申付候、其地在番之大番頭江も可被申聞候事

一大工より上まへ等之儀当地ニ而鈴木修理通りニ諸事可心

「中井家文書」

得旨可被申聞候事

以上

(元禄十一年)
十一月七日

小笠原佐渡守 (長重)

土屋相模守 (政直)

戸田山城守 (忠昌)

阿部豊後守 (正武)

松平紀伊守殿 (信庸)

〔三〇一〕 中井藤三郎書状 案

以手紙啓上仕候、追日寒冷罷成候弥堅勝被成御座珍重御儀奉存候、然者去春御讓 位為御祝儀從 右衛門督様御使大御番組頭小出伊左衛門殿被相勤候、去閏三月四日 参 内ニ御座候由右御使ハ 御殿内何方迄参上之事ニ御座候哉 伝 奏衆御出合ニ御座候哉、御附衆御出合ニ御座候哉、伊左衛門殿着用布衣ニ而御座候哉、熨斗月長上下ニ而御座候哉、御門者唐御門より出入ニ而御座候哉、

(九九)

九九

右之趣等内々ニ而承知仕度奉存候、去春伊左衛門殿御使被相勤節私儀未家督不被 仰付候内ニ付施薬院ニ而出合も不仕候故委細之様子承不申候間御尋申上候、乍御六ヶ敷御答ニ被仰知可被下候、奉願候、以上

十月廿六日

町美濃守様

中井藤三郎

〔三〇二〕 中井藤三郎書状 案

以手紙致啓上候、其後者御物遠ニ罷過候、寒冷ニ御座候 処弥御堅固可被御勤と珍重奉存候、然者内々承度儀御座候間、以參得御意度奉存候得共此節殊外多用ニ罷在候付乍略儀以手紙得貴意候、去春御讓 位被為濟候御祝儀之節小出伊左衛門 御所様江御使相勤候着座之席何方ニ御座候哉、尤布衣着用表御門より出入仕候儀と奉存候、右御席儀且又伝 奏衆御出合ニ御座候哉 御附衆御出合ニ御座候哉此等之儀共ニ承知仕度奉存候、御内々ニ而被仰聞可被下候、近比乍御六ヶ敷奉頼候、此段得貴意度如斯御座候、心事期貴面之節候、以上

十一月三日

山本佐渡守様

中井藤三郎

〔三〇三〕 大和三輪神社々司 越式部書状

貴札忝拜見仕候、余程暖氣相催候所弥御安康之由可被成御凌珍重奉存候、然ハ先月廿八日御封ニ而御状被下忝奉存候、誠ニ 藤三郎様より例年之通御書并御初穂被下置有難奉存宜敷御披露奉希候、次ニ各々様より不相替御初穂忝御同役様方へ宜敷御達シ可被下候、毎々江戸表へ之品々御苦勞忝奉存候

一旧冬十月四日御封ニ而御書慥ニ手入候、別紙始祖御写共慥ニ着仕候、且又二月朔日御封ニ而江戸表之書状御達被下忝手合候、右両度共越近江守実名之義被仰聞早々御返答も可申上所、去冬分ハ南都詰ニ而一円帰山不仕、旧冬廿七日迄相詰罷在候ニ付両度御状之義も早々当着有之候得共家内ニ留置、当正月早々迄拜見得不仕候間存外之至候得共御返書延引相成失礼之段御用捨可被下候、且又

当月十四日御封書一時十八日ニ着仕拝見仕候所被仰聞候
趣無申訳恐入奉存候、私義も前段申上候通旧冬廿七日迄
南都ニ相詰罷有当月十五日迄八日之神役ニ而寸暇無御座
候所又々同月十九日より南都へ罷出当月七日迄相詰居
候、又々同月十五日より罷出候之間御他様より御差達被
下候年始御状尚又巨勢大内蔵様より御書共早々当着仕罷
有候得共、拙者帰宅候迄拝見得不仕万端失礼相成候段偏
ニ御用捨可被下候、帰宅早々御返事可申上候所出入一件
之義ニ付取込居候儀共ニ付存外之至御免可被下候
次ニ越近江守実名輪義と申義弥(ママ)之所被仰聞承知仕候、先
年江戸表書進し候通大永五年之書留ニ近江守輪義と申義
相見へ申候、其外ニ然と致候書物ハ見当り不申候間統□
等之義も何共相分り候義ハ治定難申上候間、右之趣早々
得貴意度如此御座候、

一去ル夏御他様御越被下候節御覽有之候通少シ之書留ニ
而見当り候斗ニ而然と致候義ハ相分り兼申候、右之次第
ニ御座候間、此段江戸表へも宜敷御取成被下度奉願上候

二月廿日

越 式 部

中島弥一郎様
舟橋治左衛門様
木村胸之助様

猶以大内蔵様衆へ年始并御初穂等罷下置候ニ付早々御
請書状差上可申候所一向取込居候付今暫ク延引相成候
段御次手之節宜敷御取斗い被仰達可下度、是又偏ニ御
頼申上候拙者義も品ニ寄候ハ、御地へも罷越候義も難
斗候間上京候ハ、早々以参可得貴意候間万事宜敷御取
捨奉希候、右申上度早々如此ニ御座候、以上

末筆ニ御座候得共木村胸之助様へ年始書状尚又年始之
品等可差登之所失礼仕候、当春ハ甚取込居候付存外之
至ニ候得共、此段宜敷々々御取成被成下度偏ニ奉願上
候、以上

二月廿日

越

中島御氏様

(糊封ウラ書)

二月廿日出

× (黒印)

急之御届ケ可被下候、以上

(糊封ウラ書)

京都寺町通丸太町上候所

中井藤三郎様御門

和州三輪社司
越式部

中島弥一郎様

大急用

質相私

〔三〇四〕 山本佐渡守書状 付中井藤三郎書状 案

(ウラ書)

中居藤三郎様

貴報

山本佐渡守

此間御使札拝見仕候、如来教其後御物遠罷過候、先以御堅固御勤役珍重奉存候、然者一昨日者遠方へ参入夜罷帰不能即答昨晚御尋仕候得共未御帰宅無之内罷帰候、委細被仰聞候義御内意書付進上仕候、猶期貴顔之節候、以上

十一月五日

追啓折節御多用取込早々任御心易略書高免可被下候、以上

中井藤三郎書状 案

乍御報御手紙致拝見候、一昨日者私宅へ御出被下候処罷出不得貴意残念之至ニ御座候、思召寄御出被下忝奉存候、然者御尋申進候品御別紙委細御書付被下誠御六ヶ敷儀千万忝奉存候、御紙面之通承知仕候、何様貴殿御礼可得御意候、昨日之夜旁如此御座候 以上

十一月六日

山本佐渡守様

中井藤三郎

〔三〇五〕 山本佐渡守書状

(ウラ書)

辰十一月五日

山本佐渡守方来

御讓 位御祝儀

一去卯年後三月十一日

御三家方使者相濟之後刻

小出伊左衛門

被献物

縮緬 五卷 台乘

一種一荷

右御使者御両伝雜掌同道案内奏者所ニ而取次罷出受取、

奏者所之大廊下ニ而両武家衆出座御使者御目錄持參被罷

出御口上相濟、已後使者奏者所ノ休息所被退罷出候間其

後御両伝江両武家衆被申上候而御両伝大廊下江出座、両

武家衆も出座使者其節大廊下江被罷出御挨拶相濟御返事

者、園殿御里亭ニ而可被仰渡旨仰申渡候而御使者退出候

也

一御使者布衣着用

一御門出入之義ハ御両伝雜掌同道ニ而候間然と不存候、

定而表御門と罷存候、御内意左様に心得、猶委細御聞合

之義御用も候者可被仰下候、其内期貴顔可得貴慮候 以

上

十一月五日

〔三〇六〕 町口美濃守書状

(ウツ書)

中井藤三郎様

町口美濃守

辰十月廿六日

先刻者預御手紙候、如来示寒冷候得共弥御堅固之旨弥重

存候、然者御尋之趣相考候処、去年閏三月十一日御使者

小出伊左衛門殿ニ布衣而御勤候、奏者所ニ而御目錄両御

附衆御請取候、次ニ伝奏衆御出座ニ而御挨拶有之御使者

退出ニ候、御門之儀者何れ共日記ニ相見江不申候、尤御

返答者同日申刻冷泉殿亭ニ而御申渡有之候、左様御心得

可被成候、以上

十月廿六日

〔三〇七〕 町口美濃守書状

(ウツ書)

中井主水様

町口美濃守

元文二巳年十二月五日

昨日者預御手紙候、如来意其以後者不得御意候、甚寒之節候一兩日者御持病氣之由御難儀察入申候、折角可被成御保養候、然者此度二条御番衆組頭衆兩人御使被相勤候ニ付別紙之趣御聞合之段致承知候、則先規之例格付札致進申候、御使者 御所ニ而諸大夫間江向ケ被参候事ニ御座候間左様御心得可被成候、右御報早々申入候、以上

十二月四日

(別筆)

町口大判事様美濃守様御事、十二月九日御手紙来候、

内ニ如左有之

一先日御尋之御三家并両徳川家之御使者於 御所場所之儀先格之趣致付札進申候処、此度之場所者奏者所ニ相

定申候、尤来ル十二日之御沙汰相成申候、御附衆御請取候、其外之儀者先規之通ニ而候、場所者致相違候、漸一昨日比相極申候間、乍序申進候

十二月九日

〔三〇八〕 大久保八左衛門書状

御手紙忝致拜見候、然者貴様御不快未被成御勝御難儀之段奉察候、時分柄嚴寒殊不勝之天氣合旁御障ニも罷成可申哉と御噂申上候事ニ御座候、此節折角御保養專一奉存候、將又御病中御心六ヶ敷可被成御座処、御使被参席繪図被仰付候由被懸貴意誠ニ御懇情之段不浅忝奉存候、則先方へ進達申候処殊之外悦重々之礼貴様江者私より宜御礼申進候様ニとの御事御座候、且又此間棟梁衆ヲ以御不快御尋申入候御挨拶被仰下被入御念候御儀奉存候、何角と書状ヲ以も不得御意御疎意罷過候、以上

十二月十日

尚々、御不快折角ニ御保養可被成候、呉々御六ヶ敷可

被成御座処左之絵図殊御内々と被仰聞別而忝委細致承
知候外之沙汰無之様相心得奉存候、以上

(切封ウツ書)

中井主水様

大久保八左衛門

〔三〇九〕

安藤駿河守書状 写

覚

京都罷有候中井主水支配五畿内并近江六ヶ国之大工杣大
鋸木挽田畑高役先規之通御赦免被成下候様ニ奉願候、寛
永十二亥年小堀遠江守五味金右衛門江右高役 御免之旨
御奉書被遣候寛文六年宮崎七郎右衛門雨宮権右衛門江
右高役前々之通御免之旨御奉書被下之右両通主水方ニ于
今所持仕候元禄二巳年前田安芸守参府之節奉願候付於江
戸相伺候処如前々高役御免候間御先判を相用候様被仰渡
候由ニ而御奉書ハ出不申候旨安芸守上京之刻主水江申渡
候由御座候、此度者何とそ前々之通御奉書被成下候様奉
願候旨於京都書付を以願出候付猶紀伊守殿江申達候処私

「中井家文書」

参府仕候間於御当地相伺候様ニとの儀ニ御座候、依之主
水并大工大鋸木挽之頭惣代共指出候書付写入御覽奉伺候
以上

寅十二月廿三日

安藤駿河守

〔三一〇〕 片山源右衛門書状

貴札辱拜見仕候先以御無事目出珍重ニ存候当御地も別条
無御座候、歳暮之御祝儀与被仰上下武具被懸御意忝奉存
候、随而 禁中御作事首尾能御仕廻被成去月十日ニ 御
移徒御座候由先々御隙御明是又目出度存候、当年御下り
可被成所ニ御勘定以下ノ御相談ニ付御延引御尤ニ存候、
来年御下り之時分貴面ニ相積儀可得御意候、九月近所火
事之時分も被入御念貴札過分ニ存候、切々遠路之御心付
御礼不被申上候、恐惶謹言

片山源右衛門

極月廿七日

〔花押〕

中井大和守様

貴報

(一〇五) 一〇五

〔三一〕 安藤駿河守書状 写

中井主水支配五畿内并近江六ヶ国之大工杣大鋸木挽田畑
高役御赦免之御奉書先規之通被下置候様ニ致度之由如御
存知拙者其御地発足前主水以書付願之大工大鋸木挽之頭
惣代共書付差出候付紀伊守殿江申言処拙者参府之事候間
於爰元相伺候様ニと被仰候、旧冬右願書ニ覚書相添秋但
馬守殿江申上置候所昨廿八日於 御城願之通御奉書但馬
守殿御渡被成候間写置則御証文之本紙進之候、右之趣紀
伊守殿江被仰上主水へ被仰渡候様ニと存候、為御心得旧
冬但馬守殿江差上候覚書之写進之候已上

正月廿九日 安藤駿河守

中根摂津守殿

〔三二〕 大久保八左衛門書状

御手紙忝致拜見候如仰嚴寒候得共弥御別条不被成御座珍
重仕候先以貴様御持病未御同編之由御難儀と奉存候折角

御保養可被成候、此間参以得御意候御礼被仰下被入御念
候御事奉存候、然者其節御家来衆江対談致御頼申候儀先
様御聞合被下候所報書付江先格附紙ニ致先年之趣書付参
候ニ付其儘ニ而被下候由段々御細書之趣忝承知仕則被頼
候方江遣申候所殊外忝ク被申候、私より宜御礼申くれ候
様ニと之御事御座候此以後御聞合申上度事候ハ、又々可
申上旨重々忝奉存候御不快中と申別而く御世話成御事
大慶仕候猶期貴面節候以上

十二月五日

猶々御不快折角く御保養専一奉存候乍略義又右衛門ニ
御報進上仕候、乍慮外又右衛門江可然被仰被下候以上

〔ウツ書〕

中井主水様
御報

大久保八左衛門

巳十二月五日

〔三一三〕 中井主水書状案

私儀御暇被成下候様ニ奉願候、拝領物之儀茂古来之通被
下置候様奉願候、則別紙書付差上申候、以上

(正徳元年)

五月十五日

中井主水

柳沢備後守殿

(明政)

曲淵信濃守殿

(重政)

〔三一四〕 曲淵信濃守家臣三好彦太夫他一名書

状

(ウツ書)

中主水様

清田伊左エ門
三好彦太夫

御手紙致拜見候、然者御暇之御願書之御扣式通被遣候、
御取申候、信濃守罷出間帰宅次第可申聞候、以上

五月十六日

〔三一五〕 中井主水覚書案

覚

一 御紋付時服 二

親主水慶安元子年々寛文十三丑年迄数度罷下り御暇之
節右之通拝領仕候

一 白銀 五枚

貞享二丑年親主水罷下り御暇之節初而如此被下置候、
是者其砌刀御停止ニ而御座候付被下物之品茂改り申儀
与奉存候

一 此度拝領物之儀古来之通時服被下置候様奉願候、以上

(正徳元年)

五月十五日

中井主水

柳沢備後守殿

曲淵信濃守殿

〔三一六〕 柳沢備後守明政書状 写

御用之儀有之候間明廿二日 御城江差出候之様と井上河
(正岑)
内守殿被仰渡候、五時過可被罷出候、尤為御請今晚我等
宅江可被参候、以上

五月廿一日 柳沢備後守

中井主水殿

〔三一七〕 中井主水書状 案

尊書奉拜見候、然者御用之御儀御座候間、明廿二日 御
城江私儀御差出被成候様と井上河内守殿被仰渡候間五
時過可罷出間奉畏候、將又為御請今晚尊宅へ参上可仕旨
奉承知候、押付参上可仕候、以上

五月廿一日 中井主水

柳備後守様

尊報

〔三一八〕 御門御材木入札の覚

御門たし御材木之入札

一拾三貫六百拾弍匁

天満

太郎兵へ

与右工門

一七貫弍百弍拾八匁九分

ほり川

九兵へ

一六貫九百弍拾弍匁七分

ひしや

喜右工門

一六貫五百七拾九匁

ほり川

庄三郎

一四貫四百四拾五匁五分

淀や

五郎右工門

一四貫四百八匁五分

志方

源兵へ

一四貫弍百四拾八匁

いせ村や

助右工門

十一月十九日

以上